

令和7年度第1回仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 令和7年11月26日（水） 午後2時30分

開催場所

出席者

（構成員）

仙北市長	田口 知 明
仙北市教育委員会教育長	須 田 喬
仙北市教育委員会教育長職務代理者	坂 本 佐 穂
仙北市教育委員会委員	橋 本 勲
仙北市教育委員会委員	田 口 桂一郎

（市長部局）

副市長	赤 上 陽 一
総務部長	大 澤 裕 司
総務課長	猪 本 博 範
総務課主査	大 石 貴 之

（教育委員会）

教育部長	阿 部 聡
教育総務課長	大 石 基
学校適正配置準備室長	若 松 正 輝
学校適正配置準備室参事	梅 田 昌 輝
学校教育課長	戸 嶋 雅 美
学校教育課建設専門官	草 彌 雅 人

案 件

（1） 学校適正配置計画（案）について

大澤総務部長 皆様、お疲れ様でございます。ただいまから令和7年度第1回仙北市総合教育会議を開会いたします。はじめに、会議の主催者であります田口市長から挨拶をお願いいたします。

田口市長

令和7年度第1回総合教育会議にお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

改めまして10月19日に市長に選んでいただきまして2期目をスタートさせていただきました。

教員の皆様には日頃から大変お世話なっております。引き続き、田口市政にお力添えを賜りますようよろしくお願いしたいと思います。

学校適正配置も大詰めになってまいりました。後ほど、教育長、担当者から説明があると思いますので、委員の皆様には引き続き、忌憚のないご意見をいただければというふうに思います。

大澤総務部長

田口市長ありがとうございます。次に、須田教育長からご挨拶をお願いいたします。

須田教育長

本日ここに、田口市長、赤上副市長、大澤総務部長、教育委員の皆様参加のもと、令和7年度1回目の仙北市総合教育会議を開催できましたことに感謝申し上げます。

本日は、教育委員会事務局から、学校適正配置計画に係る計画案について提案させていただきます。

さて、学校適正配置準備室が教育委員会事務局内に開設されてから4年が経ちました。この間、学校適正配置について、住民の皆様や保護者の皆様と丁寧な意見交換を行ってきましたが、その数も194回越え、参加者も延べ2,000人を越えました。アンケートも11回を越え、6,000人を超す方々から回答を得ています。このように丁寧に行っているところはそうないと思います。それだけ段階を踏み、丁寧に保護者や住民と合意形成を図ってきたつもりです。

いよいよ最終局面です。これまでの話し合いでは、学校適正配置検討委員会から出された原案である「中学校については、

生保内・神代・西明寺・桧木内4校で、11年度に統合する案」が多数の方から賛同を得たところです。しかしながら、生保内地区では、他の学区同様、期待する声がある一方、通学の負担や生保内地区の衰退する不安も出され、もっと詳しい説明や話し合いの場を望む声が出ました。これについては、10月、11月と臨時の話し合いの場を設け、これまでの経過を再度説明するとともに、なぜ神代小学校を改修して4校で統合することが望ましいのか説明を行ったところです。そのことも含め、本日は、学校適正配置計画に係る計画案を提示いたします。また、指定校変更の希望が多い桧木内地区の現状についても報告させていただきます。

どうか、さまざまな視点から意見を伺いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

大澤総務部長 須田教育長ありがとうございました。それでは協議案件に入ります。本日の案件につきましては、次第にありますとおり、1件になります。ここからの進行は田口市長からお願いいたします。

田口市長 それでは私の方で進めさせていただきます。案件の学校適正配置計画案について説明をお願いします。

若松学校適正配置準備室長 令和4年度から進めてきました計画策定は今年度内の完成に向けて大詰めとなっています。

本日説明させていただく内容は4点あります。

1つ目は、2月5日に開催した総合教育会議以降の経過報告

2つ目は、それらを踏まえた学校適正配置計画の案について

3つ目は、今後の進め方

4つ目は、参考情報として最後に学校施設改修の内容と概算について説明します。

1つ目ですけれども、2月5日の会議以降の経過についてで

ございます。

1 ページ目ですが、この 3 月にまとめた計画の素案の概要版でございます。この素案の中で具体的な部分は 2 ページをご覧くださいと思います。

小中学校の統廃合の内容です。小学校については、神代・西明寺・松木内の 3 校で統合、統合校舎については、現在の西明寺小学校を使用するという内容です。

統合のスケジュールは、素案の 3 月時点ではまだ計画が決定しておりませんので、この計画決定年度 N という形にして、N プラス 3 年度が統合年度になるという説明をさせていただきました。仮に今年度内に計画が完成すれば小学校については、令和 10 年度統合になるという説明をさせていただいております。

中学校の再編内容は 2 つで、3 校統合または生保内中も含めた 4 校統合とするのか。ここは今後の調整案件となってきたところでもあります。使用校舎については神代小学校の校舎を改修して使用するというものです。神代小校舎は比較的新しく、付近に武道館、テニスコートなど、中学校部活に適した施設が整っていること、もう 1 つは 3 校あるいは 4 校統合した場合の通学の距離的、時間的な位置が中間であるということがポイントとなっています。

統合のスケジュールについては、案 A・B があり、A の小学校と同時に統合するというパターンの場合、N プラス 3 年度は、神代小学校を改修して使う関係で、神代小学校が空になった状態で 1 年間集中的に改修工事を行う必要がありますので、統合はしますが、一旦現在の神代中学校を仮校舎として統合し、N プラス 4 年度、1 年後に改修後の校舎に移転するというパターンです。

B については、最初から神代小学校を 1 年間で改修し、その翌年に統合するというパターンとなります。

この 2 つがこれまで 3 月に素案をまとめた時点以降、調整課

題となってきたところであります。

この調整課題について検討していくために、アンケートを行いました。3 ページ以降について担当の梅田から説明をいたしますので、よろしくお願いいたします。

梅田学校適正
配置準備室参
事

3 ページから5 ページまでのところをお話させていただきます。

まず初めに、中学校統合の組み合わせと時期についてのアンケート結果です。今年5月に行った保護者アンケートの回答となっております。中学校統合の組み合わせについては、生保内学区の園・小・中の児童生徒がいる世帯の保護者を対象に行いました。単独が47.7%、統合が50.5%となり、総合を推す声がやや多いという結果になりました。

中学校統合の時期については、生保内、神代・西明寺・桜木内の4学区の園・小・中の児童生徒がいる世帯の保護者を対象に、記述式で行いました。未記入が多かったのですが、記述内容から分類すると、全体としては令和11年度がやや多いという結果となりました。

今年7月に行った教職員アンケートの回答となっております。組み合わせについては統合が69.7%、時期については令和11年度が74.0%となり、令和11年度に4校で統合という意見が全体の約7割という結果になりました。記述欄の要旨については、記載の内容をご確認ください

4 ページは7月30日に開催された教職員意見交換会の内容をまとめたものです。対象は市内全小・中学校に勤務する先生方ですが、仙北市在住の先生に多く来ていただきました。

3校統合と4校統合それぞれのメリットについてということ意見交換をしていただいたところでした。

3校統合については、「きめ細かな指導に個に応じた対応がしやすい。」「幼い頃からの仲間意識や安心感、地域との連携を取りやすい。」などのメリットが挙げられました。

4校統合は、「多様な考え、学び合いの深まり、切磋琢磨、人間関係の広がり、固定化からの脱却、社会性対人スキル、生きる力、学校行事・部活動の選択肢が増える。」という内容に加え、職員の定数や学校運営していく上でのメリットなども挙げられました。

5ページは今年10月に行われた各地区の市民意見交換会でいただいた意見をまとめたものです。これまでのアンケートの結果、意見交換会また学校適正配置検討委員会での協議を経て、令和11年度に4校での統合という事務局案を示して、そのことについてご意見を伺いました。

各地区での様子を見ると4校での統合に対して、「友人関係、競争意識、向上心、部活動・行事の盛り上がり、地域行事の活性化などを期待する。」が挙げられた一方、「たくさんの人数に入ることへの不安である。」「馴染めない生徒へのケアとか通学や送迎についての不安。」など心配な点もたくさんいただき、十分に配慮してほしいというご意見をいただきました。

特に生保内学区の一部の参加者からは、地域の衰退を強く懸念する声や、「まだ統合する時期ではない、もしくは生保内中学校を統合中学校の校舎と使用してほしい。」という意見が挙げられました。

その様子から、これまでの取り組みや、計画案の策定に至った経緯を十分に理解していただく必要があると考え、10月29日に生保内学区の園・小・中の保護者の皆様を対象に、丁寧に説明をする場を設けました。

その内容を踏まえ、さらに11月14日にも意見交換会を開催したところ、「町の将来のビジョンが示されないままでは統合に納得ができない。」「少人数でも子供の頑張る力を応援していけばいいのではないか。」「10年後の生徒数は、神代・西明寺・桧木内よりも生保内が多いので、生保内中の校舎を使うことを考えてほしい。」などの意見が出されました。

以上のことから、生保内中単独で存続か、4校統合するかはまだまとまっておりません。どちらにせよ、神代・西明寺・桧木内の3校での統合計画は変更せずに進めることも、各学区の市民意見交換会で了承を得ているところです。

若松学校適正
配置準備室長

意見交換、アンケートで判断材料を集めてきました。その結果、学校適正配置検討委員会を開催し、そこで初めて計画案をまとめてきたところでございます。

後ほど説明いたしますが、その前に1点お伝えしたいことがあります資料の6ページをご覧ください。

学校適正配置計画そのものを本流としますと、この資料となる部分に新たな課題が生じております。計画に基づく統合前に統合を行う可能性があるために少し触れさせていただきたいと思います。

桧木内中学校の現状と課題ですが、近年、桧木内中の生徒数は学齢人口の減少以外に、指定校変更による他校への就学によって減少が顕著となっております。今後の指定校変更の状況によっては、早ければ来年度から複式学級が生じる可能性があります。

複式学級は中学校の場合原則として、他学年と合わせて8人以下の場合に編成となるものです。中学校では学習の量、質ともに増え、複式学級の運営は難しさが増してきます。主なものは教員が複数科目で不足するために、他校も含めて兼務で補う必要があるというところが大きな課題となります。

現時点で令和8年度の桧木内中学校は、複式の有無に関わらず存続とすることにしております。

ただ、今後桧木内中への就学に関する意向等によっては、令和9年度または10年度に西明寺中への編入方式による統合を検討しなければいけないという可能性も出てきたところでございます。

毎年指定校変更については、11月下旬くらいまでに申請を

受け付けて、12月には指定校審査会を開いて決定されることになっていきます。その結果を踏まえて、保護者の皆さんと協議していく必要があると思います。

これは来年度の同じ時期にも10年度の編入等について検討する必要と思います。

参考までに現在の小学校4年生から中学校3年生までの児童・生徒数を掲載しておりますけれども、このとおりに全員が中学校に進学したとすれば、複式学級は生じません。

ただ参考2にあるとおり、近年では令和6年度に、5人が他校へ流れています。

もし来年度、今の小学校6年生の子供たちが複式になると、その下の学年の子供たちにも複式が生じ、今後益々減少していくという可能性があります。

今後の検討パターンとして図で示していますが、上の段は、この適正配置計画に基づく統合です。

令和10年、11年度統合を計画案としてしていますので、令和8年度から準備に入っていくということになります。

計画に基づく統合前に、編入方式の統合を行う場合のパターンを説明します。

令和8年度については、いずれにしても存続で残るということにしておりますが、その後も極端に人数が少ない、または保護者の総意として編入統合を望むということであれば検討することになります。その場合、早ければ令和9年度に統合なのか、10年度に統合なのかというのが可能性として考えられるところです。

この後、指定校変更の状況や保護者の意向を調査しながら検討していく必要があると思っております。

次に計画案の内容についてもう一度説明させていただきます。

これは春に作った計画の素案を更新したものとなります。

赤字部分が更新となった部分ですけれども、主なところを

説明していきます。2 ページ目の出生数の推移というところ、令和 6 年度実績が加わりました。昨年度は 64 人の出生で、全体として減っているということ、3 ページ目にはその出生数も加味して、小中学校の児童生徒数の予測を立てました。

5 ページは校舎の状況ですが、経過年数に 1 加わっていますので、今回、生保内小学校の校舎が初めて 50 年となりました。

11 ページの小学校統合のスケジュールですが、N プラス何年度としていたのを 7 年度に計画を作るという前提で、年度を入れました。令和 10 年度統合が目標です。

12 ページの中学校の組み合わせに関しては、まだ今後の調整課題として残っているところがあります。スケジュールは令和 11 年度となります。下に追記がありますけれども、ここは先ほど説明した桜木内中学校の動向について触れております。近年桜木内中の生徒数は、学齢人口の減少に加えて、指定校変更による他校への就学により、著しい減少が見られます。

統合前に複式学級が生じる場合でも学校運営、学習指導が適切に行われるように教職員の兼務等により、指導体制の確保に努め、本計画による統合を待たずに、西明寺中との編入統合を検討する可能性もあるということに触れさせていただきました。

最後 13 ページは計画の推進体制です。統合に係る諸準備および統合後の学校運営を円滑に進めるため、学校適正配置準備室や教育委員会内部の職員配置、組織横断連携などの工夫により推進体制を強化し、学校および関係機関との連携、調整機能の役割を果たしていきます。

また、統合対象校の児童生徒を持つ家庭の中には、様々な不安を抱えていることも考えられるため統合に関わる相談支援体制を学校と一緒に整えていきます。

最後に廃校舎等についてです。本計画により今後廃止とな

る学校施設は表8のとおりです。中学校の組み合わせが決ま
ってないので空欄にしています。

学校は長年にわたり、地域コミュニティの拠点としての役
割も担ってきた施設であることから、廃止となる学校施設お
よび敷地については、計画策定後、市が地域住民の意見を聞
きながら、利活用を含めた廃校後のあり方を様々な視点から
検討していくこととなります。解体という選択肢のほか利活
用していく選択肢もあると思います。

次に今後の進め方について7ページご覧ください。

先ほど梅田の説明の中でも生保内地区からは様々な不安、
心配の声、中には反対というような意見もありました。10～
11月の間には園・小・中の保護者を対象として生保内中の存
続統合に関する意見交換を行ったところで、12月にはPTAや
地域住民も含めた市民意見交換会を行いたいと思っております。

広報せんぼく12月号に予定を載せておりますけれども、こ
のような形で市民にお知らせをしたいと思っております。

そして2月までに生保内学区の0歳児から小学校5年生の
保護者を対象としたアンケートを行いたいと思っております。
生保内中学校は存続、統合のどちらが望ましいと考えるかを
問います。それまでにじっくり考えていただきたいと思っ
ています。小学校5年生というのは、令和11年度の中学校統
合に直接関わり影響のある保護者ということになります。

3月までには学校適正配置検討委員会、総合教育会議、ま
た市議会にも説明する機会を設けたいと思っております。そ
して年度内に市教育委員会として計画を決定したいと考えて
おります。

8ページは計画策定後の統合までの想定スケジュールとな
ります。

統合小学校については令和10年度統合ということになりま
すと、令和8年度から9年の2年間かけて、統合準備委員会

を設置して、校名や通学体制等を協議していくこととなります。ハード面では令和8年度に校舎改修の設計を行い、令和9年度には工事を実施し、併せてスクールバスの準備等も行います。

中学校は令和8年度から統合準備委員会で同様に協議を進めていきます。ハード面については1年の猶予があるので9年度に設計、10年度が工事实施という流れ、正式決定は議会での条例改正になりますが、改正するためには学校名を決定しなければ提案できません。統合準備委員会の中で、校名を協議していくこととなりますが、決定方法の先進事例を見ると、公募というのがあり、公募で考えた場合は秋ぐらいに決定し、来年12月の条例改正を議会に上程する予定を立てています。ここまでが今後の進め方です。

最後に参考情報として、9ページの学校統合に係る学校施設改修費の概要です。これはコンサルに委託し、調査してまとめた資料です。

学校統合に係る改修には、統合に伴う必須のものと、補助金を活用して、今やることが望ましいというものも含めた全体の額となっています。

小学校は令和10年度の統合から3年間の児童数を載せていますけれども、学級数、普通教室が初年度は8教室必要ということになります。今、普通教室が6ですので、2つ増やすこととなります。あとLED改修、体育館の屋根から雨漏りもありますので、あわせて実施したいと考えています。LED照明が結構大がかりとなります。トータルしますとこのぐらいの概算額となります。

中学校は、統合する学校の組み合わせによって規模が異なりますが、4校統合した場合8教室必要となります。今、神代小は6学級ですので、2つの教室が増えるということになります。

そのための改修内容を書いています。小学校を中学校に

変更するために必要な改修というのもあります。まずは技術室を新設する必要があり、美術室も必要となります。教室を人数に合わせた転用とすることを見込んでいます。費用は記載ぐらいと見込まれます。

4校統合といった場合、部活動の状況によっては神代小の体育館で足らず、近くの市民体育館も日によってスポ少で使用していますので、神代中の体育館を活用する必要があるかもしれません。その場合、LEDをこの機会に改修するとすれば約2,800万円加算されると思います。必須のものはやらなければいけません、できればこの機会にやるのが望ましいというものも含まれています。

これらの内容精査し、市の財政当局とも検討が必要になります。

説明は以上でございます。

田口市長

はい、ただいま説明がありましたが、だいぶ形が見えてきたものの生保内中学校については、今になって反対意見が出されているという状況にあります。

また、先ほど説明がありました桜木内中学校への進学についても、最初から西明寺中学校を選択する生徒さんが増えてきている状況でもあります。その辺も含めて委員の皆様からご意見をいただきたいんですが、教育長なにかありますか。

須田教育長

丁寧に説明したつもりでございますけども、まだ反対者が多くいるということで、12月のPTAに私も出向きまして、なぜ神代小学校を改修して4校統合する必要があるのかについて丁寧にまた説明していきたいと思っております。

田口市長

それでは今日教育委員の皆様3名でございますので、全員から意見とかご質問いただければと思います。

橋本委員

今日も丁寧に説明していただきまして、ありがとうございます。

教育長からお話ありましたけれども、令和4年度から4年間様々な機会を捉えて、市民の皆さん、保護者の皆さん、PTA、そういった方々と意見交換をし、説明し、アンケートを実施して、丁寧に進めていただいていたと思っております。大変ありがたいというふうに感じております。

学校適正配置検討委員会でも様々な情報を基に検討されて、それらを基に今回、学校適正配置計画の案が示されたところでございますので、私はこの案で進めていただきたいと思っております。

ただ中学校の統合の組み合わせについては、まだ確定されておりませんが、生徒の教育環境の整備ということを第1に考えた場合は、生保内中・桧木内中・西明寺中・神代中の4校統合、そして角館中が存続という計画が望ましいのではないかなと思っております。

ただ、生保内地域では「中学校存続させたい。」「存続してほしい。」という意見もあるようですので、教育長からお話あったようにこの後も説明や意見交換の場を設けて、丁寧に進めていただき、皆さんの理解を得て、ぜひ4校統合を実現していただきたいと思っております。

それからの統合を進めるにあたり、保護者の皆さんからいろいろ心配な点が出されておりますけれども、その中の1つに、通学の負担というお話がされています。通学時間をできるだけ短くするというのも、その心配を解消する1つの手立てではないかなと思っております。例えば西木の場合ですけれども、上桧木内地域から1台、桧木内地域から1台というスクールバスの運行を考えていただければ、児童生徒の通学時間というのは短縮されると思っておりますので、考えていただきたいと思っております。

それから桧木内中学校ですけれども、令和8年度は就学指

定校の変更いかに関わらず存続ということですのでけれども、令和9年度については、ある一定の規模で学ばせたいという学校適正配置計画との整合性を考えた場合、教育委員会から西明寺中学校への編入というものも父兄の皆さんと話し合いをする場というのが必要になってくるのではないかなと思います。

この4年間本当に学校適正配置準備室を中心に、丁寧に進めていただいて、本当にありがたく思っております。

以上です。

田口市長

はい、ありがとうございます。

今、橋本委員からお話のあった中で通学の負担、編入について教育委員会の方から西明寺中学校への提案、親への提案というような発言がありますけどそれについて何かありますか。

若松学校適正
配置準備室長

上桧木内から1台、桧木内から1台と想定しています。路線バス型方式で所々立ち寄ることも想定していましたが、熊の状況もあって、保護者の中には集合拠点を設けてそこにみんな集まると安心だし、乗っている時間も短くなるという話もありましたのでその点を保護者の皆さんと、具体的に相談していきたいなと思っています。

編入については、指定校変更の状況と意向調査をしてみても判断になります。保護者の皆さんと話し合った結果、編入がいいということになれば、それを受けて検討していくことになると思います。

田口市長

次に田口委員お願いします。

田口委員

橋本委員と同様な点が重なりますけれども、教育長の話にもあったこれまで4年間、準備室開設以来194回、約2,000

人、アンケートについては延べ 6,000 人と、本当に丁寧な説明の機会を多数作っていただいて、市民、特に統合対象校になる学区については、丁寧な説明を繰り返し行いながら、不安の解消とどういう点が不安なのかを吸収して、それについての解決策を提案するなり、この統合計画策定に向けた説明を丁寧にしてきた中で、教育委員会でも何度も検討しながら吟味してきた内容ですので、ぜひこの形で進めていただければありがたいなどの思いであります。

資料の中にもありましたが、これまでの住民や保護者への説明の中で、総合に向けた様々な不安、特に中学校統合に関しては、5 ページに各地域からの集約が示されておりますけれども、通学に関わる時間への配慮というところが大きいわけですけれども、人間関係の配慮ですとか、様々な細かい点について具体的に示された不安点については、丁寧な説明で、今後もこういう点については具体的にこういうふうにしていくというような説明を重ねて、不安の解消に努めていただければありがたいなと思っております。

生保内地区からは、特に中学校の統合についてここにきて意見が噴出してきているということですが、生保内地区の方々にとっても「人数もある程度いるのにどうして統合しなければならないのか。」という思いも当然あるのかなというのは理解できます。ただ、やっぱり教育委員会としては、この計画作成の趣旨にありますとおり近い将来、遠い将来の子供たちの教育環境をどう維持するかというのが教育委員会の責務でもありますので、計画を進めて、維持していきたいということを説得しながら、理解していただくしかないのかなと思います。

まちづくりの観点から学校がなくなることは地域衰退の要因として大きいという話も出ているようですけれども、衰退の要因としては大きいかもしれませんが、教育とまちの衰退を同じ土壌で議論していくのは難しい点があるのかな

と思います。切り離すわけにもいかないと思いますが、やはり将来の子供たちの教育環境を維持する、守っていくためには、何とか理解してもらって、これは待ったなしだと、まちづくり計画のスピード感と教育環境のスピード感は違うということも含めて、ご理解いただくしかないのかなと思っております。

もう1つですけれども、桜木内学区の編入統合について、これも教育委員会で詳細なアンケート調査、聞き取り調査をしていただいたデータを示された上で検討してもらってきたわけですけれども、保護者の気持ち、子供たちの気持ちを優先に考えていただいて、保護者の総意でそういう方向になれば早めの編入等もやっぱり考えなければいけないのかなと。

編入統合になれば、通学への不安もなくなるわけで、スクールバスも準備できるだろうし、指定校変更届出の就学になれば、保護者の送迎というのが条件になりますので、そういった点で抵抗感もあるでしょうし、教育環境の維持ということを見ると、複式学級の中で存続させるということよりはよりよい教育環境の中で、子ども達にいろんなチャレンジをさせたいという思いもありますので、そうした方向性も考えていく必要があるのかなと感じているところであります。

保護者の総意があればということですがけれども、保護者に任せきりでは、保護者同士が集まって相談するということがないのでないかと思います。そういう機会をどこで作るのか、保護者が沸々と湧いて自然な状況でそういう声が出てくる場合もあるでしょうけれども、どこかで意見を聞く機会を行政で設けて、それとも保護者の総意として、PTA等で集まって相談して、申請という形で出てくるのがいいのか、そこら辺については私もわかりませんが、白岩小学校統合の時のように、地域やPTAから統合のお願いが出てきたから、あの統合が進んだという経緯もありますので、そうした形を待つのがいいのか。

白岩の場合は、長年の保護者の思いや地域の思いもあって、保護者側からの申請が出た形になったわけですがけれども、桧木内としてはそういった形で出てくる可能性はあるのかどうか。ただ、保護者に預けっぱなしでも先には進まないのかなという思いもありますので、なかなか難しいなというところは感じました。以上です。

田口市長

はい。ありがとうございます。最後の桧木内学区については、白岩小学校統合の際に保育園から小学校に上がるときに、親が白岩小学校に上げるか角館小学校に上げるかという悩みが深く、同じ年の人たちでどうするというような、いわば探り合いがありました。区長とか PTA がこれでは駄目だということ、前倒しで何とか角館小学校に統合をお願いしたいというような経緯がありました。そこも含めて今回、桧木内中学校はそのような状況になるのかわかりませんが、いずれにしても保護者や子供たちにそういうストレスを与えて学校選びをさせるようなことはできれば避けなければいけないのかなと思っておりました。

それでは坂本代理者をお願いしたいと思います。

坂本教育長職務代理者

生保内学区の方々から、反対意見が今のこの時期になって出てきているということに驚きを感じているのですけれども今まで私達が何年もかけて話し合ってきました。先ほどの数字にも表れているように、市民の皆さんと話し合って、1番いい方法、いい将来を考えて話し合ってきました。もう決まりそうになったここに来てなぜこんな意見が出てきたのかというのもありまして、もう少しこれを早く出していただければ、話し合いの余地もあったのかなと思っています。

その反対意見の理由が本当に子供たちのことを考えての意見なのか、あるいはその地域に住む自分たち大人の考えているのがそこに反映されているのではないのかなと心配も少

しあります。もちろん反対意見はこれから大切に丁寧に解決に持っていくわけですけれども、実際にこれから学校に入る子供たち、学校で過ごす子供たちの学習環境、生活環境というものを、何より最優先に考えて進めて行きたいと考えます。

桧木内のことに関して話がずれるかもしれませんが、私ははなさき仙北の理事もやっております、午前中に理事会があったのですが、ひのきないこども園も0歳児が1人、4歳児が3人、5歳児は卒園してしまうと、今後どのくらいの入園希望があるのかわからないですが、現状そういう状態なので、それがやがて小学校、中学校となっていくわけですから、やはり早急な改革をしていかなきゃいけない時期に来ているのかもしれないと思っています。

そして計画策定が今年度であれば、進めていかなければいけない時期に来ていると思うのですが、やはり市民の意見を聞きながら丁寧に進めていく必要があると感じています。以上です。

田口市長

はい、ありがとうございます。ちなみに生保内学区で生保内中学校の統合反対という意見が出たのは、何に対して反対なのか具体的に教えてもらえますか。

若松学校適正
配置準備室長

1番多かったのは学校施設がなくなることによって、地域が衰退してしまうのではないかという心配、不安です。

教育施設がなくなるとすれば、そこで子育てをしようとして戻ってくるのか、定住の部分で非常に町が弱くなってしまうという、心配の声が多かったです。

もう1つは校舎についてですけれども、人数が統合して多くなるということについては、これは皆さん理解いただいたと思いますが、その統合校舎については神代ではなく、1番人数が多く、新幹線が止まる駅があること、主要な公共施設がたくさんあるこのまちに校舎を持ってこられないのかとい

うようなご意見もありました。

大きくはまちづくりの観点で地域衰退に関するご意見、統合する場合に生保内中学校に持ってこれないかという意見が多かったです。

田口市長

まさに今、坂本委員が言った子供主体の考えではなく、中学校がなくなると町が衰退する、子育て環境が悪化する、それを育てる親の立場の観点で、子供のことでない感じですね。

3人の委員からご意見をいただきましたけれども、全体的に学校適正配置準備室で4年間、丁寧に説明、アンケート、意見交換をしてきたことを評価していただいて、今の案を進めることが、共通したご意見だったかなと思います。

先ほど坂本委員からの話にあったとおり、大詰めここにきて、「これで行くぞ。」という中で、いきなり生保内地区から反対が出たということで我々も寝耳に水ではありましたけれど、子供を持つ親御さんの意見としては、完全に無視してというわけにはいきませんので、そこは理解していただいた上で、できるだけ大きな統合をすることで、数年後にまた統合の検討をしなくていいように、この場でも何度も皆さんから私も聞いてきておりますので、今出てきたのは課題ではあるかなと思います。

今日は案についての説明と現状についての説明をさせていただきましたが、何かここで決めるということではないと思いますが、どうしますか。

須田教育長

事務局案としては、小学校は令和10年度に3校統合を進めたいということを最終の地区説明会で提案したいと思っています。仙北市においては、小学校については3校体制ということの提案です。

10年度から中学校については、白紙に戻すことはできません

ので、生保内中が入る、入らないは別にして令和 11 年度に松木内・神代・西明寺を神代小学校の校舎を改修して、統合中学校を作る。そこに生保内中が入るかどうかを提案していきたいと思えます。

もう 1 回、生保内中学校に神代から来てもらえないか聞いてもらいたいということでしたので、12 月に PTA の役員会を開催していただき、その案を考えられるけどもいかがですかと役員に聞きたいと思っています。

その可能性はかなり厳しいとは思いますが、これまでの積み重ねということがありますので、一応その案について意見を聞きたいと思っています。

田口市長

この話が出たときに私も生保内の会議出ている親御さんの話を何人からか聞きましたけれども、何を言っているのかと、何を今さら言っているのだと、ここまで散々検討してきて、先ほど委員の皆さんと話があったとおり、丁寧にみんなで合意形成を図ってきて、これで行こうかってときに突然降って湧いて出てきたように、反対だというのはあまりにも無責任だと思います。反対している方々は、神代が生保内にくればいいのか、そのような意見は今までなかったと思います。そこについてもこちらとすれば、今までの経緯をしっかりと伝えて、あとは総意として生保内を統合するか、それとも単独で生保内中学校を存続させるかという部分をどう判断するのかというところを最終確認して、皆さんが何を望んでいるのかというところが重要かと思えます。

若松室長他になにかありますか。

若松学校適正
配置準備室長

これからも丁寧に説明していくわけですが、最終的な判断材料として大きいものは 2 月に行う予定の保護者アンケートだと思います。回収率をなるべく高めていって、保護者の総意というものをしっかりと掴んだ上で総合教育会議、検討

委員会で議論して判断したいと思っています。

また、この案の内容について中間報告的な形になりますけれども、今週金曜日に市議会議員にも説明をさせていただきましたと思います。そこで確認いただいたものを、12月の市民意見交換でもきちんと説明していきたいと思っています。

田口市長

わかりました。生保内を衰退させたくて、統合させるわけじゃなくて、結果的には統合することによって子供たちの教育環境や今後の仙北市の教育のあり方について、それが最終的には皆さんの意見を踏まえた上でベストであるということでの提案だったと思います。そこについてはしっかり伝えていただきたいですし、残すということはどういうことなのか、将来生保内中学校に入学する子供たちがどんな環境で学ぶことになるのか。

しっかりそこはお伝えした上で、最終的には保護者の皆さん、関係者の皆さんに判断していただきたいなと思います

委員の皆様から何か他にご意見があればお願いしたいと思っています。

田口委員

統合が進んだ後の改修に関わることで意見ですけれども、今日は統合学校に関わる予算だけの計上になってはいますけれども、例えば生保内小学校はそのまま存続するわけですよ。ところが、小学校は既に50年近くなっている。大規模改修の計画の段階から統合計画を待って、具体的な改修について考えていかなければいけないということであったはずだと記憶しています。小学校のトイレについては、だいぶ改修等が進んで、改善はされてきてはいますけれども、水道が冬場に凍ったり、水を出しっぱなしにしなければいけないとか、結露がひどかったり、冬場の校舎は寒いですし、そういった点でもかなり老朽化が進んでいる段階です。もし生保内小が残るとなればやっぱり大規模な改修が必要になってくるというふう

に思います。生保内中が残ればそれももちろん考えなければいけないだろうし、残る角館小・中もだいぶ年数は経っていますけれども、小学校はまだ10年ちょっとですのでそういったことを考えると、予算的には今後も新設統合校だけでなく、他校舎もかかってくるのかなということを考えます。ある程度の教育環境を維持するためには、生保内小学校も大規模な改修が必要ではないかなと思います。既にそれも考えられて試算されているかもしれませんが、考えていく必要があると感じています。以上です。

田口市長

田沢湖本庁舎も50年を超えて、結露よりも何よりも、配管が錆びで蛇口から出る水は飲めません。それだけ老朽化して2階のトイレも大便器は使えず、配管が詰まっている状態でボロボロです。50年は建物の寿命なのかなと感じします。今の件については何か。

須田教育長

議会でも答弁しましたが、この統合計画が初年度から長寿命化と大規模改修計画を行っていかねばいけないということを、報告しているとおりにしなければいけないわけで、文部科学省からの指示により、どこから手つけていくかについては、事務局内で検討しなければいけないわけですが、まずはその計画に則ってやらなければいけないということも文部科学省から指示が来ています。

最初にやんなきゃいけないのは多分LED化しないと、現在の照明は製造されていませんので、この前の県南教育長会議でも、大仙市も横手市も相当の金額になるからどこから進めていくか、どういう予算取っていくのかについては、教育長同士で意見交換することにしました。相当明るくなると思います。

田口市長

いずれ生保内小学校については、子供たちはかなり我慢し

てきていると思うので、限界に近い教育環境の中で生活しているということは現状としても感じていますので、そこら辺も待ったなしの状況であるということも考えながら、予算措置をしていかなければいけないのかなと感じているところで

戸嶋学校教育
課長

田口委員からのご質問の生保内小学校とか生保内中学校の話ですけれども、教育長からもありましたけれども、今年度建物の長寿命化計画をコンサルにお願いしていて、現在計画策定中です。それを基にして優先順位の高いところから順次改修する予定と考えております。

まずは計画立てて、コンサルに見てもらい、決めていきたいと考えています。

田口市長

そうすれば今日は学校適正配置の案件のみでございまして、いつもの通り皆さんから一言ずつご意見をいただきたいと思えます。

阿部教育部長

本日の委員の皆様から頂戴した意見を踏まえまして、軸足をぶれずに、教育委員会では今までもやってきたとおり、丁寧に理解を得られるよう、説明に徹しながらやっていくということには変わりはありません。

先人がおっしゃられた言葉の中にも「教育は百年の計」という言葉もございまして。教育義務を果たしていくためにどういう環境が必要なのかということをご丁寧にお話しながら理解を得られるよう、今後も努力を続けてまいります。以上でございまして。

赤上副市長

委員の皆様方には貴重なご意見ありがとうございました。

結局誰のための教育なのかを考えたときに、やっぱり子供の成長が様々な人と出会うことによって培われていくのだろう

など思っていて、私もそういう体験をさせていただいている中で、限られた人数よりは、より多くの子供たちと出会うということは、やはり必要だと思います。ぜひとも中学校の4校案を推進して、それによって子供たちが成長して、この仙北市を担っていただく方向に導いていただければなと思います。以上です。

大澤総務部長 私の立場的にはまちづくりの観点から何回か説明会に参加しております。率直な感想を言わせてもらいますと、この前の説明会に来られたのは、反対の親御さんだけだったように思われました。

その中で、「人数が少なくてって何が悪い。」って発言もありました。その説明会が終わった後に私も何人かから連絡いただきました。「確かに子供たちのための学校適正配置ではあるのだけれども、生保内というのは仕事場もいっぱいあるし、生保内に通ってくる親御さんも結構多い。」という話がありました。言われれば確かにそうだなっていうことは感じました。先ほど話ありました「神代・西明寺・桧木内から生保内に来いというのは現実的でない話はわかっているけれども、できるだけ残していただけないものか。」という率直な意見は私もいただいております。その善し悪しは当然あると思うのですけれども、まずは親御さんからそういう意見があったことはぜひお伝えしておきたいなと思いました。本当に今まで丁寧にやってきてもらって、最後の最後で躓きかけていますが、今が本当に丁寧にやるタイミングなのかなと思っていて、0歳から小学校5年生までの親御さんに対するアンケート、これが本当に100%近くなるような形にやっていくのが一番大切なのかなとの思いであります。以上です。

猪本総務課長 私からは学校改修費の概算について、この概算額を積算するにあたってもちろん財源の検討も一緒になさっていると思

いますので、概算額と同時にその財源内訳も記載していただくと今後の見通しというのは立てやすくなるのかなと思います。次回の資料からその財源の部分を記載していただければよりよい資料になって議論が進むのかなと思いますのでぜひお願いしたいと思います。以上です。

梅田学校適正配置準備室参事 現場での経験等も生かしながら、丁寧に説明していきたいと思います。今後もよろしくお願いします。

草彅学校教育課建設専門官 学校統合に係る学校施設改修の概算業務は12月が期限となっております。これに向けて概算業務を行っております。これをしっかりまとめ上げまして、来年度実施設計ですので、それに向けてスムーズに入っていけるよう、準備を整えたいと思っています。

戸嶋学校教育課長 実際に学校教育課長として、校長先生や先生方とやり取りする立場となっております。

今回の適正配置計画は様々先生方の意見も反映しながら子供たちのことを第1に考えた計画となるように進めていきたいと思っています。

親は自分の思いで「地域に残さねえ。」とか地域のためとは言いつつも、やっぱり子供の視点が抜けてしまっていて、そこがすごく残念だなと思っています。

やっぱり子供第一の計画になるようにこれからも頑張っていきたいなと考えています。

大石教育総務課長 今、反対している人たちは、自分の後輩になりますが、心苦しいですが、やっぱり子供の視点から見て、子供が1番いい状態で、教育に進めていくことが1番だと思っています。

反対している人たちの人数よりも、説明会に来ない人たちはその統合に向けての気持ちを持っていると思うのでその人た

ちの気持ちも考えながらと統合に向けて事務局内でお話したいと思います。

大石 総務課主 査 総務課 4 年目になりまして、初めてこちらの会議へ入らせていただきました。

こちらの会議の分厚い議事録の方を配布させていただいておりまして、こちらの会議が教育委員会の皆様と市の当局との情報共有や、意見交換として非常に重要な場であると認識しております。今後とも、会議がスムーズに開催され、正確な記録を残せるよう努めたいと思います。今後ともどうかよろしくお願いいたします。

若松 学校適正 配置準備室長 令和 4 年度からこの登山を始めまして、9 号目ぐらいまで来たかなと思います。

それまでは割と順調にきて、山頂も見えていた感じがしますがここに来て足踏みしています。踏み外して、転がっていかないように慎重に丁寧に進めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

須田 教育長 たくさんの意見ありがとうございました。本当にこれまで丁寧に進めてきましたので、2 月まで本当に丁寧に合意形成を図りながら頑張っていきたいと思います。

今日はどうもありがとうございました。

田口 市長 今年仙北市は誕生 20 周年を迎えました。

20 年前 3 万 2,647 人でスタートした仙北市が今 2 万 2,400 人ということで、1 万人減った状態になります。

高齢化が進むというのは現実ですけれども、だからといってそこで住んでいる私たち仙北市民が不幸になるわけではないので、そこに 2 万 2,000 人の暮らしがあるし、2 万 2,000 人に幸せな人生があると私は思います。

学校適正配置についても、人口減少の中でも、子供たちに1番良い教育環境を現役世代の私達が残さなければいけない。

それは皆さんおっしゃっている短期的な、1・2年の話でなく、10年スパンで考えなければいけないと私は思っています。

10年後の現役世代、子供たちが「なぜこんな状態になったのだ。」ということのないように、先を見据えた判断をぜひ市民の皆さんにも理解をしていただいて、進めていければなというふうに思います。難しい話ですがそれぞれの思いがありますが、ここは避けては通れないので、引き続き皆さんからもお力をお借りし、この学校適正配置を前に進めて、子供たちの教育環境を少しでも充実させて、良くなっていくように進めていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いしたいと思っております。

これで仙北市総合教育会議を閉じさせていただきます。

ご協力ありがとうございました。

(午後3時45分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会教育長

仙北市教育委員会委員